

内
令

内令第千百七十七號

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

昭和十七年七月一日

軍 艦 須 磨

内令第千百七十八號

横須賀鎮守府在籍

軍 艦 春 日

吳鎮守府在籍

軍 艦 浅 問

舞鶴鎮守府在籍

軍 艦 吾 妻

軍 艦 國 古 守

艦 後

1141

内
令

右帝國軍艦籍ヨリ除カル

昭和十七年七月一日

軍 艦 八 石 壇

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令第千百七十九號

海防艦 古守
海防艦 國後
海防艦 石垣
海防艦 八丈

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル
右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

特務艦 春日
特務艦 深間

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル	右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル	特務艦	吾妻
舞鶴鎮守府在籍	海防艦	國	
海防艦	八	石垣、	
吳鎮守府在籍	春	八丈	後
特務艦	日		
横須賀鎮守府在籍	間		
吾妻			
特務艦			
舞鶴鎮守府在籍			

内令

右第四豫備特務艦下定ム

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令第千百八十號

特設砲艦隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第三砲艦隊ノ項ヲ削ル

第五砲艦隊ノ項中「京城丸」ヲ削ル

(内令提要卷一、二四二ノ三頁参照)

内令第千百八十一號

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十七年七月一日

海軍大臣 鳩田繁太郎

第三監視艇隊ノ項中「第八號住吉丸」ヲ削ル

(昭和十七年内令第三百五十三號参照)

内令第千百八十二號

昭和十七年内令第六百五十五號別表中左ノ通改正ス

昭和十七年七月一日

海軍大臣 鳩田繁太郎

横須賀鎮守府、横須賀防備隊哨戒艇ノ項中ニ「第一號、第二號」ヲ加フ

横須賀鎮守府、第六十四警備隊魚雷艇ノ項ノ次

第一號、第二號、
哨 戒 艇

第三十四號、第三十五號

ヲ削ル

吳鎮守府、佐伯防備隊哨戒艇ノ項中「第三十一號」ノ下ニ「、第三十四號、第三十五號」ヲ加フ

内
令

一一〇五

1145

内令

一一〇六

参照 昭和十七年内令第六百五十五號ハ特務艇ノ本籍及所屬ノ件ナリ

内令第千百八十三號

昭和十七年内令第六百五十八號別表中左ノ通改正ス

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

吳海軍警備隊ノ項特設監視艇ノ欄「第五春成丸」ヲ削ル

第八十一警備隊ノ項特設監視艇ノ欄ニ「第三高千穂丸、瑞邦丸、興生丸、第一海洋丸、第二あらふ
ら丸」ヲ加フ

参照 昭和十七年内令第六百五十八號ハ特設特務艇ノ所屬ノ件ナリ

内令第千百八十四號

汽船京城丸

右特設砲艦トシ横須賀鎮守府所管ト定メラレタル處之ヲ解カル

汽船南浦丸

1146

右特設砲艦トシ舞鶴鎮守府所管ト定メラレタル處之ヲ解カル

漁船 第八號住吉丸

右特設監視艇トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

漁船 第五春成丸

右特設監視艇トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

汽船 大井丸

右特設運送船（給糧船）トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

汽船 日產丸

右特設運送船（給燃油船）トシ舞鶴鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

海軍大臣 島田繁太郎

昭和十七年七月一日

内令第千百八十五號

左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管ヲ左ノ通定ム

内令

一一〇七

1147

内
令

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

一一〇八

船 舶 名	特設 艦 船 名	所 管
漁船 第三高千穂丸	特設監視艇	
同 瑞邦丸	横須賀鎮守府	
同 興生丸		
同 第一海洋丸		
同 第二あらふら丸		

内令第千百八十六號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

1148

軍艦、巡洋艦一等青葉型ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ス

八雲、磐手、出雲

同海防艦ノ項ヲ削ル

同砲艦ノ部中「多多良」ノ下ニ「須磨」ヲ加フ

潜水艦ノ欄ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

海防艦 古守型 古守、國後、八丈、石垣

(内令摘要卷三、三三頁參照)

内令第千百八十七號

特務艦類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

練習特務艦ノ項中「敷島」ノ下ニ「淺間、吾妻、春日」ヲ加フ

内令

一一〇九

内
令

(内令摘要卷三、四〇頁参照)

内令第千百八十八號

昭和十六年内令第千二百二十六號横須賀鎮守府ノ項中「第二聯合特別陸戦隊」ヲ削ル

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

参照 前記内令ハ戰時編制實施中艦隊等ノ司令部附務士官以下ノ補充鎮守府ノ件ナリ

内令第千百八十九號

氣象關係暗號書表配付標準左ノ通定ム

現品ハ海軍文庫ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

(別表一葉添)

1150

別表

(昭和十七年内令第千百八十九號)

艦 艦 部 隊 名							
圖 書 名							
海軍氣象甲暗號書							
備	海軍氣象乙暗號書	同	海軍氣象丙暗號書	同	海軍氣象丁暗號書	同	海軍氣象戊暗號書
考	氣象丙暗號書	同	氣象乙暗號書	同	氣象丁暗號書	同	氣象戊暗號書
	一、○印ハ教務用ノモノヲ含マズ 三、△印ハ外戰部隊ニ編入サレタル場合ノミトス 五、一般徵備船ニ配布ノモノハ配布整備ノ上出納ヲ遞信省ニ移スベキモノトス	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一	一
	五	五	五	五	五	五	五
	三	三	三	三	三	三	三
	一	一	一	一	一	一	一

内令第十九十號

横須賀鎮守府第四豫備特務艦

特務艦 春 日

吳鎮守府第四豫備特務艦

特務艦 浅 間

右當分ノ間定員ヲ置カズ

昭和十七年七月一日

海軍大臣 鳩田繁太郎

内令第千百九十一號

特設艦船部隊定員令中左ノ通改正セラル

昭和十七年七月一日

海軍大臣 鳩田繁太郎

特設艦船部隊定員令中左ノ通改正セラル
〔第三十二表ノ六〕ヲ〔第三十二表ノ七〕ニ、〔其ノ五〕ヲ〔其ノ六〕

ニ改ム

内令

内
令

一一一

特設警備隊定員表其ノ五ヲ別表ノ如ク定ム

特設警備隊定員表其ノ六中「第三十二表ノ七」ヲ「第三十二表ノ八」ニ、「其ノ六」ヲ「其ノ七」

ニ改ム

特設警備隊定員表其ノ七中「第三十二表ノ八」ヲ「第三十二表ノ九」ニ、「其ノ七」ヲ「其ノ八」ニ改メ「第八十二」ノ下ニ「、第八十四」ヲ加フ

(別表一葉添)

(内令提要卷一、五六二頁參照)

内令第千百九十二號

昭和十七年内令第七百六十六號中左ノ通改正ス

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

「第二聯合特別陸戰隊司令部職員表及」及「各」ヲ削ル

別表第二聯合特別陸戰隊司令部職員表ヲ削ル

鎮守府特別陸戰隊職員表中舞三特ノ欄及同表特修兵ノ部舞三特ノ項ヲ削ル

第三十二表ノ六

(昭和十七年内令第千百九十一號)

特設警備隊定員表 其ノ五

1154

考備		計		隊附		隊附		司令大佐		特設警備隊定員表	
特務	士官	特務	士官	主計少佐、主計大尉	軍醫少佐、軍醫大尉	主計少佐、主計大尉	軍醫少佐、軍醫大尉	分隊長	副隊長	司令大佐	其ノ五
一 中少尉、特務中少尉ハ合計員數ノ範圍内ニ於テ彼此増減シ又他科ノ下士官及兵ヲ以テ充ツルコトヲ得	三 特修兵ハ適宜トス	十二人	十一人	一 二 八	一 二 一	一 二 一	一 二 一	兵	機關兵曹長	兵	第 五
二 下士官及兵ハ合計員數ノ範圍内ニ於テ彼此増減シ又他科ノ下士官及兵ヲ以テ充ツルコトヲ得		兵	下士官	准士官	主計護工作關兵	主計護工作關兵	主計護工作關兵	看護兵曹長	工作兵曹長	機關兵曹長	第 五
		五百十一人	百六十二人	十五人	三百六十二	二十九	十 百	三十三	一	三十	

第七十一表ノ二

(昭和十七年内令第千百九十三號)

砲艦定員表其ノ八

考備	計			乘組			艦長中少佐			須磨		
	特務士官	士官	士官	機関特務中少尉	主計大尉	軍醫大尉	機關主計大尉	軍醫大尉	機關主計大尉	兵曹曹長	機關兵曹長	須磨
一 兼ネシムルモノトス	二人	七人	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二 機関特務中少尉及機關兵曹長ノ中一人ハ機關長、一人ハ艦長ニ充テ其ノ一人ハ掌機長ヲ	兵下士官	准士官	主計兵	工兵	機工兵	水關兵	主計兵	工兵	機工作兵	兵曹曹長	機關兵曹長	須磨
	六十七人	二十二人	一人	四	一	三	三十九	三十	二	一	一	十

参照 昭和十七年内令第七百六十六號ハ第二聯合特別陸戦隊司令部職員表及鎮守府特別陸戦隊職員表ヲ定ムルノ件ナリ

内令第千百九十三號

海軍定員令中左ノ通改正セラル

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

砲艦定員表其ノ八ヲ別表ノ如ク定ム

(別表一葉添)

(内令提要卷一、一四六頁参照)

内令第千百九十四號

特修兵教員配置規則中左ノ通改正ス

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

特修兵配置表其ノ十三中橋立、宇治ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

内令

一一三

内
令

須磨
三
七
〇
〇
三
一
三
二
三
一
〇
二
三
一
一
一
一
〇
〇
〇
〇
一

同表備考第一號ヲ第三號トシ第一號ノ次ニ左ノ如ク加フ

二、本表ノ外軍艦須磨ニハ掌測的兵(高)一及掌機雷兵(普)二配置ス

(内令提要卷一、四五一页参照)

内令千百九十五號（所要ノ向へ配付）

内令第千百九十六號

昭和十六年内令第十四十七號中左ノ通改正ス

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

別表第二横須賀鎮守府ノ部中第五砲艦隊ノ項「三(各艦一)」ヲ「二(各艦二)」ニ改メ第二聯合特別

陸戰隊司令部ノ項ヲ削ル

同吳鎮守府ノ部中第四十三警備隊ノ項ノ次ニ

第八十四警備隊

一
一
一
八
八
八

ヲ加フ

同舞鶴鎮守府ノ部中舟山島警備隊ノ項ノ次ニ

第五警備隊

一
一
一
八
八
八

ヲ加フ

參照 前記内令ハ科長兼分隊長等定員中務士官ヲ以テ充ツベキ位置ヲ定ムルノ件ナリ

内令

一一七

内令第千百九十七號

昭和十五年内令第四百二十四號中「國後、石垣、八丈」ヲ削ル

同年内令第八百七十八號中「占守」ヲ削ル

昭和十六年内令第四百八十七號中「第五十一驅潛隊」及「第五十三驅潛隊」ヲ削ル

同年内令第四百八十九號中「第二京丸」、「第十二京丸」、「第十三京丸」及「興嶺丸」ヲ削ル

同年内令第四百九十一號ハ之ヲ廢止ス

昭和十七年内令第千八十二號中「兵曹」ヲ「兵曹、機關兵曹」ニ改ム

昭和十七年七月一日 海軍大臣 嶋田繁太郎

参照

昭和十五年内令第四百二十四號ハ軍艦自衛等ノ人員臨時増減ノ件

同年内令第八百七十八號ハ陸海軍航空隊等ノ人員臨時増減ノ件

昭和十六年内令第四百八十七號ハ第五十一驅潛隊等ノ人員臨時増減ノ件

同年内令第四百八十九號ハ特設掃海母艦射水丸、いくしま丸ニ人員臨時増減ノ件

昭和十七年内令第千八十二號ハ横須賀海軍人事部等ニ人員臨時増減ノ件

内令第千百九十八號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十三年内令第八百二十二號及昭和十七年内令第八百四十三號ハ之ヲ廢止ス

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第十一特別工作部(救難船兼曳船第五吳ノ乗員ニ充ツベキモノ)

兵科佐尉官	部員	一人
特務中少尉、兵曹長	附	一人
機關特務中少尉、機關兵曹長	附	一人
兵曹水兵	十六人	
機關兵曹、機關兵	二十二人	
工作兵曹、工作兵	一人	(特修兵適宜)
看護兵曹、看護兵	一人	
主計兵曹、主計兵	一人	

内
令

一一二〇

本人員中特務士官以下ハ吳鎮守府在籍者ヲ以テ充ツルモノトス

参照 昭和十三年内令第八百二十二號ハ救難船第五吳ノ第二遣支艦隊司令部ニ供用中同船ノ乗員ニ關スル件ナリ

昭和十七年内令第八百四十三號ハ佐世保鎮守府(救難船兼曳船第五吳ノ乗員ニ充ツベキモノ)ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令第千百九十九號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

本令ハ昭和十七年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス

海軍大臣 嶋田繁太郎

昭和十七年七月一日

佐世保防備隊(海威ヲ乗員ニ充ツベキモノ)

少佐、大尉	隊附	一人
兵科尉官	隊附	一人
特務中少尉	隊附	一人
機關特務中少尉	隊附	一人
兵曹長		一人

1161

内
令

機關兵曹長	一人
兵曹、水兵	五十五人
機關兵曹、機關兵	三十六人 (掌機兵)
看護兵曹	一人
主計兵曹、主計兵	五人 (掌經理兵)
工作兵	二人 (木工、鐵工、漆工)
內令第千二百號	
當分ノ間左ノ通各人員ヲ臨時増置ス	
昭和十七年七月一日	
海軍大臣 鳴田繁太郎	
特設航空母艦 飛鷹、隼鷹、春日丸	
軍醫科尉官 乗組	一人

内令

内令第二百一號

昭和十七年内令第七百十八號中「四人（掌機兵一、掌電機兵一、掌內火兵四）」ヲ「八人（掌機兵一、掌電機兵一、掌內火兵四）」ニ改ム

昭和十七年内令第八百七號中「舞鶴鎮守府第三特別陸戰隊」ヲ「第五警備隊」ニ改ム

昭和十七年内令第八百三十九號中第二聯合特別陸戰隊司令部ノ項ヲ削リ「舞鶴鎮守府第三特別陸戰隊」ヲ「第五警備隊」ニ改ム

昭和十七年内令第八百二十六號、同年内令第八百四十五號及同年内令第十九號ハ之ヲ廢止ス
昭和十七年七月一日

海軍大臣鳴田繁太郎

参照

昭和十七年内令第七百十八號ハ大湊防備隊（幌筵航空基地保守員ニ充ツベキモノ）ニ人員臨時増置ノ件

同年内令第八百七號ハ舞鶴鎮守府第三特別陸戰隊ニ人員臨時増置ノ件

同年内令第八百三十九號ハ第三聯合特別陸戰隊司令部等ニ人員臨時増置ノ件

同年内令第八百二十六號ハ特設巡送船衣笠丸ニ人員臨時増置ノ件

同年内令第八百四十五號ハ第二艦隊司令部（轄洋丸ニ乗船セシムベキモノ）ニ人員臨時増置ノ件

同年内令第十九號ハ第二艦隊司令部ニ人員臨時増置ノ件

内令第千二百二號

左ノ内令ハ之ヲ廢止ス

昭和十七年七月一日

海軍大臣鳴田繁太郎

昭和十七年内令第八百二號（第二聯合特別陸戰隊司令部ニ人員臨時増置ノ件）

同年内令第八百十九號（第二聯合特別陸戰隊司令部等ノ人員臨時増減ノ件）

内令第千二百三號

昭和十六年内令第千百七十八號中「百十七人」ヲ「百」十一人ニ改ム

同年内令第千二百七十五號中「二十八人（掌電信兵）二二（横須賀鎮守府在籍者）二八（舞鶴鎮守府在籍者）二二」ヲ「三十六人

（掌電信兵）三〇（横須賀鎮守府在籍者）二八（舞鶴鎮守府在籍者）二二ニ改ム

昭和十七年内令第四百五十四號中「特務中少尉、兵曹長隊附一人」ヲ「特務中少尉、兵曹長隊附二

人（内吳鎮守府在籍者）一」ニ、「三十人（掌電信兵）（内吳鎮守府在籍者）二十四」ヲ「四十一人（掌

電信兵）（内吳鎮守府在籍者）二十五」ニ改ム

内令

一一三

1164

内
令

一一三四

同年内令第二百三十八號ハ之ヲ廢止ス

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

参照
昭和十六年内令第千百七十八號ハ第三通信隊等ノ人員臨時増員ノ件
同年内令第千二百七十五號ハ第六艦隊司令部等ノ人員臨時増減ノ件
昭和十七年内令第四百五十四號ハ第八通信隊ニ人員臨時増置ノ件
同年内令第二百三十八號ハ第三通信隊ニ人員臨時増置ノ件

1165

内令第二百四號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十六年内令第七百二十五號中「増減」ヲ「増置」ニ改メ「増員」及減員ノ項ヲ削ル

昭和十七年七月三日

海軍大臣 嶋田繁太郎

海軍潛水學校

兵科特務士官

分隊官兼
教員

一人

特務中少尉、兵曹長

附兼教官
教員

一人

機關特務中少尉、機關兵曹長

附兼教官
教員

一人

兵曹、水兵

教員

一人

機關兵曹、機關兵

教員

一人

看護兵曹、看護兵

教員

一人

五人(掌砲兵高一、掌水雷兵高三)
特修兵適宜(暗號)一

六人

十人

内令

一一四五

1166

内
令

主計兵曹主計兵

三人（掌經理兵一）

參照 昭和十六年内令第七百二十五號ハ海軍潜水學校ノ人員臨時増減ノ件ナリ

内令第千二百五號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十七年七月四日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第十一航空艦隊司令部

主計特務中少尉、主計兵曹長

附
一人

○正誤

本年内令第千五百四十四號及千五百五十五號中「七月十日」ハ「七月二十日」ノ誤

内令

一一三七

1168

内令第千二百六號

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十七年七月五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第一監視艇隊ノ項中「第三八千代丸、」及「第二三徳丸、」ヲ削ル

第二監視艇隊ノ項中「第五清壽丸、」及「第十二號八龍丸、」ヲ削ル

第三監視艇隊ノ項中「雄勝丸、」ヲ削ル

(昭和十七年内令第三百五十三號參照)

内令第千二百七號

左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管ヲ左ノ通定ム

昭和十七年七月五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

船 舶 名	特 設 艦 船 種 別	所 管
漁 船 大 盛 丸		

内
令

一一二九

内
令

一一三〇

同 第五三國丸
同 第一福神丸
同 第三神光丸
同 第五神光丸

特設監視艇 橫須賀鎮守府

同 第七神光丸
同 第六神光丸
同 第五虎丸
同 事代丸

内令第千二百八號

昭和十七年内令第六百五十八號別表中左ノ通改正ス

昭和十七年七月五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

1170

隊備警第五
雄 第五號 勝 八龍丸
第十二號 清源丸
第三八千代丸 第二三德丸

第六十一警備隊ノ項特設監視艇ノ欄ニ「大盛丸、第五三國丸、第一福神丸、第三神光丸、第七神光丸」ヲ加フ

第六十二警備隊ノ項特設監視艇ノ欄ニ「第五虎丸、第五神光丸」ヲ加フ

第六十三警備隊ノ項特設監視艇ノ欄ニ「事代丸、第六神光丸」ヲ加フ

第六十四警備隊ノ項特設監視艇ノ欄ニ「第三號榮福丸」ヲ加フ

父島方面特別根據地隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

參照 昭和十七年内令第六百五十八號ハ特設特務艇ノ所屬ノ件ナリ

内
令

内令第千二百九號

昭和十三年内令第八百九十三號別紙中別紙ノ通改正ス

別紙ハ海軍艦政本部長ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム

昭和十七年七月六日

海軍大臣 島田繁太郎

(昭和十三年内令第八百九十三號ハ潜水艦各種狀態ニ於ケル搭載物件重量配分標準ノ件ナリ)

内令第千三百十號

昭和十四年内令第四百二十七號中「看護兵曹一人」ヲ「機關兵曹一人（特修兵適宜）」ニ改ム
同年内令第九百七十三號中「四十五人」ヲ「四十四人」ニ改ム

本令ハ昭和十七年六月八日ヨリ之ヲ適用ス

昭和十七年七月七日

海軍大臣 嶋田繁太郎

參照 同昭和十四年内令第四百二十七號 東京海軍通信隊二人員臨時増設ノ件
同年内令第九百七十三號

内令第千二百十一號

戦闘訓練規則草案中別紙ノ通改正ス

別紙ハ海軍省教育局長ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム

昭和十七年七月七日

海軍大臣 嶋田繁太郎

○正誤

内令第千四十三號中「昭和七年内令第二百九十三號」ハ「昭和七年内令第二百四十九號」ノ誤

内令

一一三五

内令第千二百十二號

第十九潛水隊

吳鎮守府豫備潛水艦

伊號第百五十六潛水艦

伊號第百五十七潛水艦

伊號第百五十八潛水艦

伊號第百五十九潛水艦

右警備兼練習潛水艦ト定メラル

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令第千二百十三號

第二十五號掃海艇

第四十號驅潛艇

第四十一號驅潛艇

内令

一一三七

1174

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定ス

駆逐艦 早波

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令第十二百十四號

第七號掃海特務艇

第八號掃海特務艇

第九號掃海特務艇

第十號特務掃海艇

第十一號掃海特務艇

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令第千二百十五號

特設砲艦隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第八砲艦隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、一四二ノ五頁参照)

内令第千二百十六號

特設掃海隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第十三掃海隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、一四二ノ八頁参照)

内令

一一三九

1176

内 令

一一四〇

内令第千二百十七號

昭和十七年内令第六百五十八號別表中左ノ通改定ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第四十三警備隊ノ項特設掃海艇ノ欄ニ「高砂丸、第三玉園丸、鳥嶋丸、安宅丸」ヲ加フ

参照 昭和十七年内令第六百五十八號ハ特設特務艇ノ所屬ノ件ナリ

内令第千二百十八號

汽 船 長田丸

汽 船 弘玉丸

右特設砲艦トシ横須賀鎮守府所管ト定メラレタル處之ヲ解カル
昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

汽 船 西京丸

1177

内令第千三百十九號

左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管ヲ左ノ通定ム

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

船 舶 名	特設艦船種別	所 管
汽 船 長 田 丸	特設運送船(雜用船)	横須賀鎮守府

同 弘 玉 丸

内令第千三百二十號

特務艇ノ本籍及所屬別表ノ通改正ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

（別表一葉添）

内 令

一一四一

1178

内令

一一四二

内令第千二百二十一號

昭和十六年内令第千二百二十六號中左ノ通改正ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

横須賀鎮守府ノ項申

第六水雷戦隊

ヲ削ル

佐世保鎮守府ノ項申

第五潜水戦隊

ヲ削ル

参照 前記内令ハ戰時編制實施中艦隊等ノ司令部附特務士官以下ノ補充鎮守府ノ件ナリ

内令第千二百二十二號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

驅逐艦、一等夕雲型ノ項申「清波」ノ下ニ「早波」ヲ加フ

1173

(別表)

(昭和十七年内令第千二百二十號)

特務艇ノ本籍及所屬															
籍本	所屬	特務	艇名												
第六十五警備隊	第六十四警備隊	第六十五警備隊	第六十四警備隊	第六十五警備隊	第六十四警備隊	第六十五警備隊	第六十四警備隊	第六十五警備隊	第六十四警備隊	第六十五警備隊	第六十四警備隊	第六十五警備隊	第六十四警備隊	第六十五警備隊	
横須賀防備隊	横須賀防備隊	浮狼	敷設艇	浮狼	浮狼										
佐伯防備隊	佐伯防備隊	島	哨戒艇	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
佐世保防備隊	佐世保防備隊	神	驅潛特務艇	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神
大湊防備隊	大湊防備隊	似	掃海特務艇	似	似	似	似	似	似	似	似	似	似	似	似
舞鶴防備隊	舞鶴防備隊	島	雷魚艇	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
第四十一警備隊	第四十一警備隊	島	魚雷艇	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
別第二根據地十三特隊	別第二根據地十地一特隊	島	敵潛艇	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
別第二根據地十四特隊	別第二根據地十四特隊	島	敵潛艇	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
第三號	第三號	島	敵潛艇	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
第三十九號	第三十九號	島	敵潛艇	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
第五十一號	第五十一號	島	敵潛艇	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
第五十二號	第五十二號	島	敵潛艇	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
第五十三號	第五十三號	島	敵潛艇	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
立石	立石	島	敵潛艇	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
第一百一號	第一百一號	島	敵潛艇	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
第五號	第五號	島	敵潛艇	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
第四三號	第四三號	島	敵潛艇	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
第一百二號	第一百二號	島	敵潛艇	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
第六五四號	第六五四號	島	敵潛艇	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
第三二一號	第三二一號	島	敵潛艇	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
第六六五號	第六六五號	島	敵潛艇	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
第一號	第一號	島	敵潛艇	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島

掃海艇、第十九號型ノ項中「第二十四號」ノ下ニ「、第二十五號」ヲ加フ

驅潛艇、第十三號型ノ項中「第三十九號」ノ下ニ「、第四十號、第四十一號」ヲ加フ

(内令摘要卷三、三三頁参照)

内令第千二百二十三號

特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 鳩田繁太郎

特務艇、驅潛特務艇第五十一號型ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第一百一號、第一百二號、第一百三號

同掃海特務艇ノ項中「第一號型」ヲ「第三號型」ニ改メ「第一號、第二號」ヲ削リ「第六號」ノ

下ニ「、第七號、第八號、第九號、第十號、第十一號」ヲ加フ

同魚雷艇ノ項ヲ左ノ如ク改ム

内
令

一一四三

内
令

一一四四

魚雷艇	第一號型	第一號、第二號、第三號、第四號、第五號、第六號
	第一百一號	

(内令提要卷三、四二頁参照)

内令第千二百二十四號

大東亜戦争中特設艦船ニ非ザル海軍徵傭船舶ニシテ武裝シタル場合ニ於テハ該船舶ノ所屬長官ハ兵曹、水兵四人（特修兵適宜）ヲ同船舶ニ乗船セシムルモノトス

前項ノ人員ハ當該船舶ノ所屬廳ニ臨時増置セラレタルモノトス

昭和十三年内令第七百四十一號ハ之ヲ廢止ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 鳩田繁太郎

参照 昭和十三年内令第七百四十一號ハ特設艦船ニ非ザル海軍徵傭船舶ニシテ事變地ニ往復スル際警戒ノ爲人員ヲ一時乗船セシムルコトヲ得ルノ件ナリ

内令第千二百二十五號

大東亜戦争中左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 鳩田繁太郎

各海軍警備隊

内令

二四五

特務大尉、隊附兼分隊長 一人 (一般武裝商船ニ關スル業務ニ充ツベキモノ)

兵曹、主計兵曹 一人

特務中少尉、兵曹長 隊附 一人 (特設見張所ニ關スル業務ニ充ツベキモノ)

内令第三百二十六號

昭和十六年内令第三百九十九號中「夕張」ノ下ニ「五十鈴」ヲ加フ

昭和十六年内令第四百八十八號中「第三砲艦隊」、「長田丸」及特設砲艦南浦丸ノ部ヲ削ル

昭和十七年七月十日 海軍大臣 鳩田繁太郎

参照 (昭和十六年内令第三百九十九號ハ軍艦長良等ニ人員臨時増置ノ件
同年内令第四百八十八號ハ第一砲艦隊等ニ人員臨時増置ノ件)

内令第三百二十七號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 鳩田繁太郎

内 令

工作兵曹、工作兵		五人（掌工兵）
内令第二百三十八號		
當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置シ昭和十七年七月八日ヨリ之ヲ適用ス、		
少 將	出仕	一人
少 將、大 佐	出仕	二人
主 計 科 佐 尉 官	出仕	一人
技 師	出仕	一人
書 記	附	臨時二人

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置シ昭和十七年七月八日ヨリ之ヲ適用ス、

昭和十七年内令第八百六號中中少將出仕一人乃至拔手附臨時三人ヲ削ル

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

1185

内
令

技 手 附 臨時三人

一一四八

参照 昭和十七年内令第八百六號ハ海軍敎政本部ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令第千二百二十九號

昭和十七年内令第八百五號中左ノ通改正ス

本令ハ昭和十七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

光海軍工廠（造機部設立準備員ニ充ツベキモノ）中人員ヲ左ノ如ク改ム

少 將 機 關 大 佐 出 仕 一 人

機 關 大 佐、造 機 大 佐 又 ハ 技 師 出 仕 一 人

機 關 中 佐、造 機 中 佐 又 ハ 技 師 出 仕 二 人

技 師 出 仕 臨時一人

書

記

附

臨時一人

1186

抜

手附 临时七人

参照 昭和十七年内令第八百五號ハ光海軍工廠(造機部設立準備員ニ充ツベキモノ)等ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令第千二百三十號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置シ昭和十七年七月一日ヨリ之ヲ適用ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第十五護衛隊

軍醫科尉官 隊附 一人

看護兵曹、看護兵 五人

内令第千二百三十一號

昭和十七年内令第四百八十五號中左ノ通改正ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令

一一四九

1187

内
令

一一五〇

人員ヲ左ノ如ク改ム

機關少佐、機關大尉

軍醫科尉官

主計科尉官

兵科特務士官、准士官

整備科特務士官、准士官

機關科特務士官、准士官

工作科特務士官、准士官

兵整備兵曹

機關兵曹

工工作兵曹

兵曹、水兵

整備兵曹、整備兵

〔教官兼
分隊長〕
隊附

一人

五人

一人

一人

六人

二人

三人

二人

(掌砲兵高)

五十五人(掌整備兵高)

四人(掌電機兵高)

十人(掌工兵特又八高)
(鐵治二、木工三、板金二、)

二人(掌電信兵普)

五十九人(掌整備兵普四)

機關兵、曹、機關兵十五人（掌機兵 普罐二）

看護兵、曹、看護兵四人

主計兵、曹、主計兵十四人（掌經理兵 普一、掌衣糧兵 普二）

工 作 兵 四人（掌工兵（金工二）

參照 前記内令ハ横須賀海軍航空隊（整備衛練習生ノ教務ニ充ツベキモノ）ニ人員臨時増置ノ件

内令第千二百三十二號

昭和十六年内令第千四十七號中左ノ通改正シ昭和十七年七月六日ヨリ之ヲ適用ス

昭和十七年七月十日 海軍大臣 嶋田繁太郎

別表第二横須賀鎮守府ノ部中第二十一航空隊ノ項ノ次ニ

第十五設營隊

（隊附）一
二
三
四
五
六
七
八
九
ヲ加フ

參照 前記内令ハ科長兼分隊長等定員中特務士官ヲ以テ充ツベキ位置ヲ定ムルノ件ナリ

内 令

一一五一

内
令

内令第二百三十三號

昭和十六年内令第千四十七號中左ノ通改正ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

別表第一横須賀鎮守府ノ部中海軍工作學校ノ項「四」ヲ「五」ニ改メ満潮ノ項ノ次ニ

荒潮

ヲ加フ

同吳鎮守府ノ部中海軍工作學校ノ項「三」ヲ「四」ニ、第十九潛水隊ノ項「二」(伊一五六七八)
ニ改ム

同佐世保鎮守府ノ部中海軍工作學校ノ項「四」ヲ「五」ニ改メ佐世保海軍警備隊ノ項ノ次ニ

霞浦

一

ヲ加フ

海軍航空隊

一

ヲ加フ

工作學校

一

ヲ

加フ

別表第二横須賀鎮守府ノ部中弘玉丸及第八砲艦隊ノ項ヲ削リ平壌丸ノ項ノ次ニ